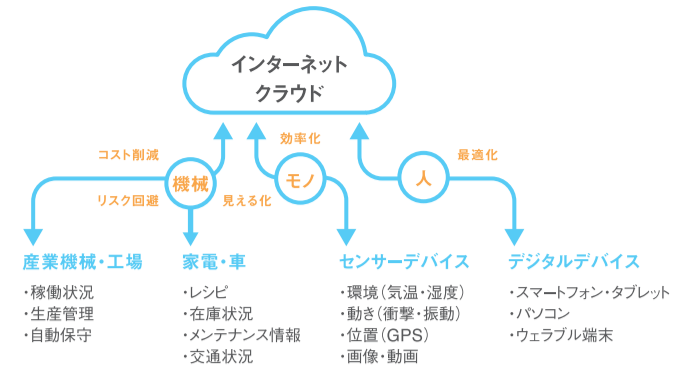


IoTって？ その発想と着眼点

「創発」がもたらす
新たなものづくり



IoT(モノのインターネット) Internet of Things

見もあります(笑)。

サファ 仕事ぶりを計測するよりは、人のサポートになるものがいいと思いますよ。私たちの商品も、現場の問題を解決するものが採用されますね。

黒野 社員数が100人を切ると、ITの専任はいなくなる企業がほとんどです。他の業務と兼任する場合、楽しんでやれる仕組みをつくらないと。

未知の可能性を秘めた市場の開拓に挑む。

黒野 誰でもリッチしやすくなったとはいえ、まったくネタがない状態で新たな取り組みを始めるのは難しい。市場に潜在する多様なニーズを一つひとつ拾い上げて、それに対応するソリューションを迅速に提供しなければなりません。その場合どうやってアイデアを見つけなければならないのでしょうか？

岡室 「IoTによって、何か旧式のビジネスモデルを破壊できないか」。そんな風に発想を変えると、何をすべきかが見えやすくなる。たとえば出版ビジネス。小説家になりたい人は大勢いても賞を取らないと本は出せなかったけど、出版社を通さな「ネット出版」ならそれが可能です。

黒野 それは面白い考え方ですね。

岡室 以前うちの会社はネットによって打撃を受けたんですよ。それまでは仕入先の情報を顧客に見せないことで、当社にしか相談できないビジネスモデルが成立していた。それ

がネットで直接探せるようになると、そのモデルは崩壊します。だから最新の動向をきちんと捉えておくということと、それが自分たちのプラスになるか、それとも脅威になるかを見極めることが必要です。

サファ もっとシンプルな方法もあります。手を動かし、頭を柔らかくする。そうすれば、掘り起こすことのできる情報や課題が見えてくる。たとえば初心者向けのマイコンの本を買って読みながら、自分で実験してみる。ものづくり企業の人達はスキルが高いので、自分で一度つくってみること。そこからいろんな課題が見えてくるはず。

小谷 従来の考え方で決まったことしかできないが、たしかに具体的に手を動かすことで、既成概念を変える多様なパターンが見えてきそうです。

サファ それと自分の事業のコアは何かを考えること。どこまで自社の既存機能で取り組み、どこからアウトソーシングや新たな人材の採用で賄うか、その見極めが大切です。

岡室 自社の情報、顧客のニーズ、エンドユーザーのニーズをすくい上げて、それをIoTから得られるビッグデータとどう組み合わせられるかを考えること。自分たちが思ってもみなかった動きがつかめると思うんです。それが見つかったら、新しいサービスやモノが生まれる気がします。

小谷 データを集めただけでは何の役にも立たない。内容を理解し、そこに意味や知見を見つけ出す。そのためセンシングがIoTで担う役割は大きい。そこが開発要因となり、

一気にブレイクスルーして発展する可能性はあります。

黒野 プラットフォームは世界中で同じでも、アウトプットが変わってくれば面白い。ぼくは仕事で島根によく行くのですが、そこで知り合った猟師の方は山にワナを仕掛けて、獲物がかかったらメールが来る仕組みになっている。ふだんはITとは無縁なおじいさんなのですが(笑)。ものづくりではないけど、これもひとつのIoTですね。

サファ 大学生にやらせてみるのもいいですね。欧米の学生には6ヶ月のインターンシップがある。彼らを採用することで企業も新しいアイデアを得られる。うちではMITから2人インターンを採用して、いくつかシステムをつくってもらった。彼らの発想を生かしながら、新しいニーズを掘り起こせる。それとIoTでは「Multidisciplinary Engineering」=複数業界でのエンジニアリング、つまり連携が大切です。

黒野 ものづくりIoT、といっても流れるには脈々と続いてきたものづくりの延長線上にあるもの。プラットフォームがワールドワイドになったということで、ソリューションとして付加価値を与えて、世界中に売っていきけるチャンスでもある。IoTにはかなり広い領域の技術が関わりますから、そのすべてを1つの企業で網羅することは難しい。それぞれの得意な分野や強みを持った企業が連携して、得意分野を担当して取り組むのが、日本のものづくりの強みを生かしたIoTと言えるかもしれません。大阪にはそういう企業やキーマンが大勢いると思います。

TODAY'S MEMBER



技術をビジネスに変える、 R&D インテグレーションカンパニー。

株式会社テクノ・エージェンツ

大阪市中央区本町 1-6-18 丸武本町ビル 8F
tel.06-6271-5425 <http://www.technoagents.co.jp/>

2003年創業。「技術の発掘・調査・評価・移転・導入の支援」をコンセプトに、民間企業として産学連携・技術移転支援事業に取り組む同社は、企業と一緒に、ものづくりから子会社である株式会社TA商事を通じた販売まで携わっている。ナノテクノロジーやオプトテクノロジーを中心に、ライフサイエンスや情報通信分野の案件まで幅広く対応し、ものづくりを支える技術を紹介するWebマガジン「TECHPON」も刊行。代表の黒野氏はインキュベーション施設管理・運営も手がけ、「大阪府ものづくり支援に関する有識者会議」委員(平成21年度)として提言。



クラウドシステムで現場を改善 オペレーションを最強サポート。

アルドネット株式会社

堺市北区長曾根町 130-42 S-Cube 211
tel.072-242-6328 <https://www.alldonet.com/>

2012年設立。クラウドサービス「AMON」を自社で制作・運営。センサーとウェブ対応組み込みシステムを活用して、さまざまな現場の状況をブラウザまたはスマートフォン端末で瞬時に確認できる遠隔操作で、「現場の見える化」を実現。「AMON」はソフト光学技術を用いて汎用性の高い標準機能を搭載しているため、簡単に利用できるのが特徴。すべての機能は、企業ごとの具体的なニーズに合わせてカスタマイズも可能。機器、プロセス、環境をクラウドベースのデータ処理と結びつけながら、オペレーションを最適化していく。



センシング×伝送、技術の融合 IT 機器等と組合せたものづくり。

豊中計装株式会社

豊中市名神口 3-7-13
tel.06-6336-1690 <http://toyonakakeisou.com/>

1976年創業。電気関連の接点信号やアナログ信号の監視、制御、計測する場合に必要な電線、ケーブルを減らす省配線化の機器、システムの開発製作を得意とする豊中計装。「大阪ものづくり優良企業賞(平成25年度)」を受賞した「スマートパワー-24」は、既存の電線に電力を流しながら並行して256カ所の監視、制御、計測などの情報を送る電源装置。通信距離や省配線などに優位性を持ち、多彩な用途が想定される。ベンチャーキャピタルと組んだ技術開発は、総務省の平成27年度「ICTイノベーション創出チャレンジプログラム」の採択候補。



玉掛け作業を、もっと安全に、 もっと効率よく。

大洋製器工業株式会社

大阪市西区千代崎 1-10-2
tel.06-6581-0343 <http://www.taiyoseiki.co.jp/>

1938年創業。船舶金具で培った製造技術で建築・建設現場、工場などさまざまな分野でおこなわれる玉掛け作業に必要な「吊り具」、シャックル、フック、リング、繊維スリング、吊り天秤などを製造・販売。老舗のブランドを大切にしながら新たな事業展開にも積極的で、2007年からはERPを導入し、蓄積されたデータを活用した改革を進めている。またスマートフォン用の多点吊り計算アプリ「D.C.吊る〜ん」や、玉掛け業者のための安全啓発サイト「もえろ!タマカケ魂」を運営。岡室氏は2016年より日本ITストラテジスト協会会長に就任。関西IT百撰2014年度最優秀賞受賞。